

難波橋 なにわばし ● Naniwa-bashi
(土佐堀川)

大阪の古い名称である難波の名が付けられている難波橋は、中之島をまたぐ堂島川と土佐堀川に架かる大阪を代表する橋の一つ。ライオン像が配置されていることから、ライオン橋とも呼ばれ親しまれている。

橋が架けられた時期は明らかでないが、寛文元(1661)年に公儀橋になったといわれている。当時の橋付近は、絶好の行楽地で夕涼みや船遊び、花火見物、月見の舞台などで賑わっていたようだ。一方、天保7(1831)年に起こった大塩平八郎の乱で「救民」の旗を掲げた勢力が、この難波橋を南に渡り北船場へと入ったという歴史ももつ橋である。

現在のような立派な橋になったのは、以前は一筋西側に架かっていた橋を、市電事業第三期線として計画された堺筋線に移し、中之島公園と一体となった都市景観の創造が図られたため。市章を組み込んだ高欄、華麗な照明灯、親柱上の阿吽のライオン彫刻、公園へ降りる石造りの階段など意匠設計がなされている。その後、昭和50(1975)年に架け換えられたが、装飾部は旧来のものが使われている。

